禁転載複製
当日配付
試験終了後公開

D19

「中央職業能力開発協会編」

令和6年度 技能検定
3級 建築大工 学科試験問題
(大工工事作業)

1. 試験時間　　1時間
2. 問題数　　30題
3. 注意事項

(1) 係員の指示があるまで、この表紙はあけないでください。

(2) 答案用紙(真偽法用)に検定職種名、作業名、級別、受検番号、氏名を必ず記入してください。

(3) 係員の指示に従って、問題数を確かめてください。それらに異常がある場合は、黙って手を挙げてください。

(4) 試験開始の合図で始めてください。

(5) 解答の方法(真偽法)は次のとおりです。

イ. 一つ一つの問題の内容が正しいか、誤っているかを判断して解答してください。

ロ. 答案用紙(マークシート用紙)へ解答する際は、答案用紙に記載されている注意事項に従ってください。

ハ. 答案用紙の解答欄は、試験問題の題数に応じて解答してください。解答欄は100題まで解答できるようになっています。

(6) 電子式卓上計算機その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。

(7) 携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末等は、使用してはいけません。

(8) 試験中、質問があるときは、黙って手を挙げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。

(9) 試験終了時刻前に解答ができあがった場合は、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。

(10) 試験中に手洗いに立ちたいときは、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。

(11) 試験終了の合図があったら、筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。

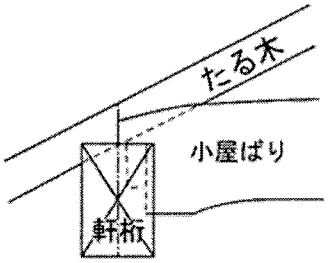
1　木造建築では、構造計算などによる構造設計により、体育館などの大スパン構造を造ることができる。

2　木造建築物における土台は、柱の下部に配置して、柱からの荷重を基礎に伝えるために使用される。

3　在来軸組構法は、架構式構造である。

4　大壁造りとは、板張りや塗り壁で、柱を隠す構造をいう。

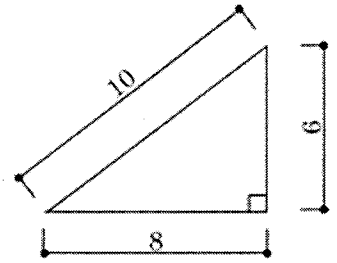
5　次図の軒桁と小屋ばりの取合いを、折置組という。



6　幅木とは、壁と床の見切りだけでなく、床を掃除する際に清掃具で壁が破損しないように壁を保護する役割ももつ。

7　平たる木の長さは、叉である。

8　次図の大矩（おおがね）の辺の長さの比は、正しい。



9　さしがねは、直線、直角線及び勾配線を描く工具でもある。

10　たる木の鼻を立水で切る場合、平勾配の返し勾配を用いる。

11　手押しかんな盤の前定盤と後定盤は、常に、同一平面上としなければならない。

12　鋸（のこ）の歯には、縦びきの歯と横びきの歯がある。

13　木材加工用丸のこ盤で反ぱつ予防装置を備えているものは、歯の接触予防装置を備えなくてもよい。

14　水盛り・遣方の芯墨は、レベルで出す。

15　独立基礎は、木造住宅には使用されない。

16　根切りとは、基礎などを造るために地盤を掘削することをいう。

17　胴差し、はり、桁などの比較的断面の大きいものに使われる継手の一つとして、追掛け大栓継手がある。

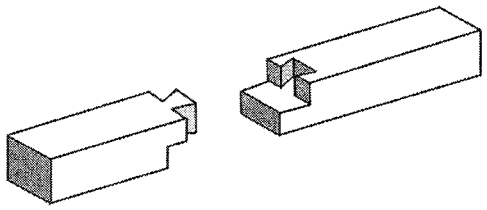
18　床根太の継手位置は、揃えるように配置するとよい。

19　継手の上木には木材の元口、下木には末口を使用するとよい。

20　発泡プラスチック系断熱材を取り扱う場合には、火気に注意する必要がある。

21　柱が垂直でなくても、継手が完全に密着していれば、ゆがみ直しは行わなくてもよい。

22　次図の継手は、腰掛けかま継ぎである。

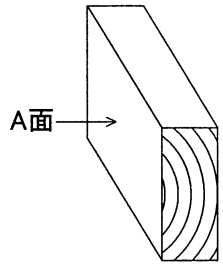


23　フローリングに直接養生テープを張る場合、粘着性が高い布粘着テープは適していない。

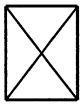
24　グラスウールやロックウールの断熱材は、雨に濡れ湿気を含んだ状態で使用しても差し支えない。

25　無垢材は、一般に、集成材よりも、反りや狂いが生じやすい。

26　次図の材料のA面は、木裏である。



27　日本産業規格(JIS)の建築製図通則によれば、次図は、木材及び木造壁の構造材を表す材料構造表示記号である。



28　日本産業規格(JIS)の建築製図通則によれば、次図は、片開き窓を表す平面表示記号である。



29　労働安全衛生法関係法令によれば、手押しかんな盤を使用する場合には、手袋をはめて使用する。

30　熱中症対策の一つとして、水分や塩分を適度に補給することがあげられる。